

岡崎市議会議長 様

支出番号

会派名

代表者名

田口 正夫

以下のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和6年3月28日提出

活動年月日	令和6年1月10日（水）～12日（金）	
氏名	田口 正夫	
用務先 及び 内 容	1 1月10日	用務先 長崎県 長崎市
		内 容 観光行政について
	2 1月11日	用務先 長崎県 諫早市
		内 容 こどもの城について
	3 1月12日	用務先 長崎県 大村市
		内 容 こども未来館「おむらんど」について
	4 月 日	用務先
		内 容
備 考		

行政視察 報告書

報告者：田口正夫

視 察 日	令和6年1月10日（水曜日）
視 察 内 容	観光行政について（長崎県 長崎市）
視 察 者	田口正夫

長崎市の「長崎」の地名には、いくつかの説があるが、この地が長い岬状の地形をしていたことから起こったといわれている。我が国の西の果ての海沿いに位置する長崎の発展の歴史は、元亀元年（1570年）ポルトガルの宣教師によって良港であることが発見され、領主大村純忠と協定を結び、翌元亀2年（1571年）ポルトガル船が入港し、町建てがされたときに始まる。



第二次世界大戦の末期の昭和20年8月9日、一発の原子爆弾は、7万余の尊い生命を奪い市北部一帯が廃墟と化した。しかし市民はその苦難の中から立ち上がり、造船業、水産業とともに戦前の水準をはるかに上回り、古い西欧文化の影響を受けた長崎市独特の歴史的文化遺産と美しい自然に恵まれた観光都市として、国内外において大きく脚光を浴びるようになった。

平成27年には、長崎市内の8つの構成資産を含む「明治日本の産業革命遺産、製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が、平成30年には長崎市内の3つの構成資産を含む「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録され、その価値が国内外に発信されるようになった。」

令和3年には、長崎駅西側にコンベンション施設である「出島メッセ長崎」が、令和4年には「西九州新幹線（長崎～武雄温泉間）」が開業するなど、陸の玄関口である長崎駅周辺の整備が進んでいる。

令和5年1月には、魚の町の市公会堂の跡地に移転した新庁舎（地上19階、地下1階）が開庁した、広々とした、明るい庁舎になっている。

※訪問客数

◎長崎市への訪問客数は、長崎市が地理的に西の端に位置することに鑑み、長崎市を通過して他都市へ移動するものが少ないと推測し、交通機関別に入込客数に基づく、長崎市への入込交通機関として、鉄道、自動車、船舶及び長崎空港に到着する航空機を加え、各交通機関別の入込客数を基に、月ごとに訪問客割合を考慮している。

・長崎市は国内観光のみならず、インバウンドやMICE、スポーツ、文化など多様な目的を持つ訪問客から選ばれるまちを目指していることから、令和4年観光統計から従来の「観光客数」の表記を「訪問客数」へ変更。

※訪問客数増加の要因

◎全国的な宿泊割引キャンペーン

・長崎県が実施していた宿泊助成の「ふるさとで“心呼吸”の旅」は、令和4年4月11日から対象を九州各県に拡大し、さらには、令和4年10月11日から「長崎で心呼吸キャンペーン」として対象が全国となった。本キャンペーンの対象月である令和4年11月及び12月の月別訪問客数は、令和元年比で両月とも9割弱まで回復

し、当該感染症の影響を受ける県内観光産業の回復を図った。その他の要因については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年以降、人流の抑制や全国的な自粛などが行われていたが、令和4年はGWなどの大型連休やお盆において、3年ぶりに移動制限が無い年となった。ほかにも令和4年9月23日に長崎、武雄温泉間に西九州新幹線が開業し、開業から3か月間で約61万9千人が利用し、在来線特急の利用者数と比較して、対前年度比で196%、平成30年比で105%の乗車となった、他にも外国人訪問客の水際対策の緩和措置等が考えられる。

※宿泊税の活用

- ・都市の魅力を高め、国内外の人々の来訪及び交流を促進するとともに、観光の振興を図る施策に要する費用に充てることを目的とし、令和5年4月1日より導入、宿泊税は、「訪問客への還元」を方針とし、「利便性」「満足度」「再訪意欲」の向上につながる事業に活用することとしている、用途の分類である「5つの柱」（宿泊税賦課費を除く）に基づき、①～⑤の順に充当する。

- ① サービス向上・消費拡大 ② 情報提供 ③ 受入環境整備
- ④ 資源磨き ⑤ 緊急時の対応



【感想・岡崎市への反映】

- ・本市が有する有形・無形の地域資源を活かしながら、受け入れ態勢の充実、高付加価値化による集客の促進、消費単価の向上、戦略的なプロモーションといった課題に対応し、持続可能な観光へと進化していく必要がある。
- ・数多くのホテルの誘致、コンベンション施設の設置及び充実、道路や観光地における駐車場及びそれに付随する施設等の施備。
- ・一つ残念なことがあった、視察最後「どうする家康をご覧いただきました」か、と質問をしたところ、職員さんの中には見ていただいてない方があり、また、「徳川家康」生誕の地はの問いかけに、ご存じでない方がお見えになったことは非常に残念、私は、視察にお伺いする時、必ず本市の観光リーフレットと桜ピンバッチその他のバッチ類を持って出かけます、議員各位にも、ぜひ、必ず持ってお出かけをいただきたい。

行政視察 報告書

報告者：田口正夫

視 察 日	令和6年1月11日（木曜日）
視 察 内 容	こどもの城について（長崎県 諫早市）
視 察 者	田口正夫

ここはぶつかるところ
ぶつかりながら守り方を学ぶところ
さあ。どうしたら守れるかな

こどもの城が目指すもの

恵まれた自然環境の中で、子どもたちの主体的な活動、子ども相互の交流、家族その他子どもたちを見守る人々との交流等を通して、子どもたちの生きる力を培う。

諫早市は、長崎県のほぼ中央に位置し、東は干潟の有明海、西は内海の大村湾、南は外海の橘湾という特性の異なる三つの海に面し、美しくそびえる多良山系の山々や市の中央部を流れる県内唯一の一級河川である本明川、その下流には広大な干拓地あり、豊かで多様な自然環境に恵まれ、また、市内には4本の国道、高速自動車道、JR、島原鉄道が通っており、長崎市、島原半島、大村東彼、佐賀鹿島方面を結ぶ交通の要衝となっている。

400年以上前からの干拓によって形成された諫早平野は県下最大の穀倉地帯であり、肥よくな丘陵地帯は野菜やみかんの特産地になっている。また、県内有数の産業集積拠点である工業団地を有し、製造品出荷額は県下第2位を占めており、バランスのとれた産業構造となっている。

平成17年3月1日には、諫早市、多良見町、森山町、飯盛町、高来町、小長井町が合併して、21世紀の県央拠点都市づくりに向けた、新しい「諫早市」が誕生した。現在「ひとが輝く創造都市」を目指し、誰もが希望をもって安心して暮らせる笑顔あふれるまちを実現していくためのまちづくりを進めている。

※こどもの城は、「レジャー施設」ではなく、「人」や「自然」との触れ合いを通して、大人も子どもも共に学びあう、諫早市独自の施設。

※ちょっと「危ない」ところです

・様々な人が利用、「心」や「体」が“ぶつかる”ことは避けられない、「死角」もたくさんあります。「屋内だから安全」ということはなく、「じぶんで考える」ことを大切に、遊ぶ。

※「人」と触れ合うところです

・こどもの城は「身体接触」を伴うかわりを大切にしているスタッフも、赤ちゃんを抱っこしたり、プロレスごっここの相手になるなど、体を使った様々な触れ合いを実践している。

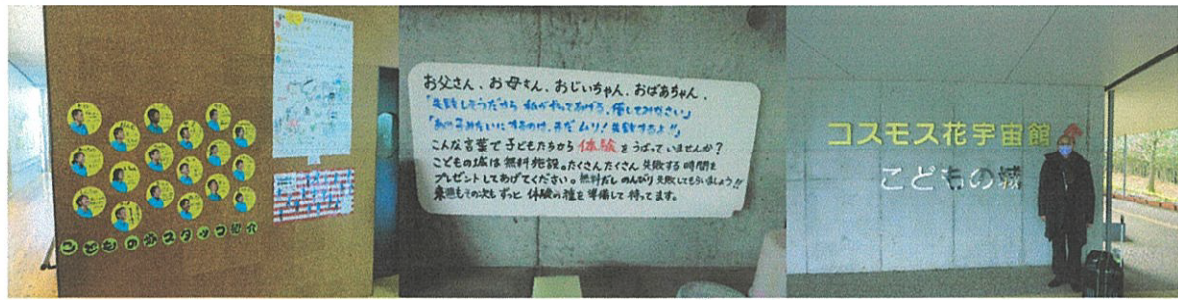
※「自然」で遊ぶところです

・こどもの城のメイン施設は、「屋外」の「自然」。乳幼児期からたくさんの自然に触れてほしいと願って山の中に建っています。赤ちゃんからOK！たくさん外に出ましょう

※利用前に安全について家族で話し合いを

※「自分の身を守る」ことが、他の人もまもります





【感想・岡崎市への反映】

- ・ こどもの城は、市の中心部ではなく、丘陵地の山の中にあり、自然との触れ合いができてのびのびとした環境の中にあり、実際現地に立っただけで素晴らしい環境下であることがわかる、建物も自然の中に溶け込んだような、心温まる環境下であった。
- ・ 人は人を作り、寄せる。素晴らしい、池田館長のもとで、この方は素晴らしい子育てのリーダーであると確信しました、役所には珍しい情熱のあるかたで、お会いできて、話を聞かせていただいて、議員としてでなく、人間として暖かく心に染み入る視察となりました、「百聞は一見にしかず」出会いに感謝。

行政視察 報告書

報告者：田口正夫

視 察 日	令和6年1月12日（金曜日）
視 察 内 容	こども未来館（おむらんど）について（長崎県 大村市）
視 察 者	田口正夫

大村市は、穏やかな大村湾、緑豊かな山々に抱かれ、新鮮な海の幸、山の幸など多くの自然的資源に恵まれているとともに、長い歴史に裏付けされた史跡などが数多く存在し、また、世界初の海上空港である長崎空港や長崎自動車道のインターチェンジ、令和4年に開業した西九州新幹線大村駅の三大高速交通拠点を有し、交通アクセスに恵まれた街、長崎県のほぼ中央に位置している、人口は約9万8千人、東は多良山系により佐賀県諫早市に境し、西は大村湾、南は諫早市、北は東彼杵町に接している、東西14.1km南北16.6kmと南北に長く、多良山系を背景とする急斜面はほとんど国有林にしめられ、県下屈指の美林地帯となっている。



※こども未来館「おむらんど」

街中の空きビルを改修して、平成26年11月8日に開館、子どもの冒険心、好奇心などをくすぐる魅力的な遊具を備え、子どもたちが「行きたい」「遊びたい」と思うような空間を提供する、また、未来館は、単なる「遊び場」を提供するだけではなく、子育てに奮闘しているすべてのお父さん、お母さんの思いを受けとめ、一緒に子どもたちの育ちを応援する、さらに、地域の皆さんが積極的に子育てに興味を持ち、子育てに参加できるしくみづくりに取り組んでいる。

※こども未来館「コンセプト」

◎未来館の主人公は親子（スタッフはそっと見守りながら、子育てのヒントを提案）

- ・未来館を訪れる親子の目的はさまざま、安全で安心できる環境の中で、保育士などの専門スタッフが訪れた親子のニーズをしっかりと把握し、サポートします、また、市内の保育サービスなど子育てに関する様々な情報を提供します。

◎こどもにとって遊ぶことは育つこと（遊びを通して心と体の育ちを応援します）

- ・乳幼児期における「走る、跳ぶ、回る」などの基本的な動作の習得は、その後の成長の基礎となる重要なものです、未来館では、遊びを通して多くの動作を体験することができるような環境を整えるとともに、感受性や創造性を育む遊びを提案するなど、子どもたちの心と体の育ちを応援する。

◎子どもはみんなの大切な宝物（地域全体で子どもを育む仕組みづくりに取り組む）

- ・近所同士での助け合いや見守りなど以前では当たり前だった日本の子育ての風景を取り戻すため、地域のみなさんがもっと積極的に子育てに興味を持つような、そして子育てに参加できるような仕組みづくりのとりくみ。



【感想・岡崎市への反映】

- ・市内にいつでも誰でも利用のできる施設の提供、また、その中で、子育て親子の交流の場の提供と交流場所、子育て等に関する相談・援助、地域の子育て関連情報の提供、子育て及び子育て支援に関する講習会等の実施、その他関連する地域支援活動の実施
- ・保護者同士や地域との交流の促進を図るため、交流イベントやテーマを決めて座談会などを企画・開催の実施。
- ・子育てが一段落着いたお母さん方に、子育てサポーターとして養成し、遊びの提案や見守りなどの、ボランティアをお願いし、子育て支援を受ける側から提供する側に循環していただくシステムを作っていく。
- ・子育ては、予行演習のない、ぶっつけ本番であるため、多くの方々の、知識や支援を必要とします、地域全体で子育て支援をしていく協力必要である。